

1 整形外科より

○スタッフ

整形外科科長	白石 公太郎	(日本整形外科学会専門医)
リハビリテーション科科長	諸岡 聡	(日本整形外科学会専門医)
医師	坂上 秀和	
非常勤医師	辻本 律	
<月に1回診療依頼>		(日本整形外科学会専門医・日本手の外科学会専門医)

○診療内容

外来診療では腰痛、膝関節痛などの慢性疾患から、外傷一般、その他四肢に関する疾患等、総合的に整形外科一般の診療を行っております。手術に関しては、外傷、主に骨折に対する骨接合術を中心に行っております。

高齢化社会に伴い、高齢者の転倒による大腿骨頸部骨折、腰椎圧迫骨折、橈骨遠位端骨折といった骨折が増加している印象があります。特に大腿骨頸部骨折、転子部骨折では、臥床期間が長くなればなるほど、四肢筋力の廃用や、肺炎、認知症の増悪など、負の要素がでてくる可能性が高くなっていくので、早期手術による離床を目標にしております。しかし最近では心疾患や脳梗塞などにより抗凝固剤、抗血小板剤等を内服されている患者さんが多く、早期に手術ができない場合もよくみられます。全身状態をみながら、内科の先生と相談したり、場合によっては麻酔科の先生に依頼して、通常の腰椎麻酔ではなく全身麻酔を選択するなどして、なるべく早期に手術ができるよう努力しております。術後は全身状態が安定すれば、主にリハビリテーションによる機能回復を目指しますが、年齢や病態による個人差もみられ、最近では認知症のある患者さんも多く、病棟のスタッフ及びリハビリテーション科のスタッフ等と一緒に連携しながら、受傷前の状態を目指して頑張っております。

病院の理念

五島の地域医療に貢献し、患者様に信頼される病院をめざします。

目標

- 一、患者様中心の医療
- 二、安全な医療
- 三、質の高い医療
- 四、健全なる経営
- 五、救急医療の充実

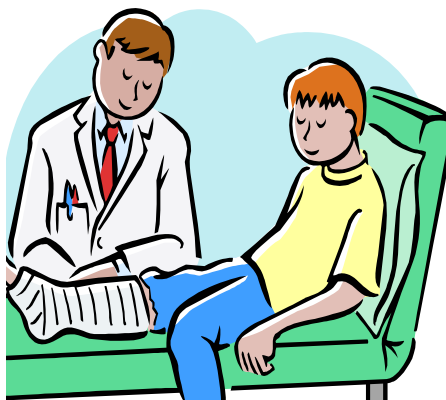
基本方針

- 一、患者様にわかりやすい言葉で説明します。
- 二、検査や治療については患者様の同意を得て実施するように努めます。
- 三、医療水準の向上に努めます。
- 四、病診連携、保健・福祉機関との連携に努めます。

目次

1 整形外科より

2 手術室より



2 手術室より

[手術室・中央材料室紹介]

当院手術室は、年間平均1,100例余りの手術を行っています。また、中央材料室では、院内全体の医療器具や材料の洗浄・消毒・滅菌・管理をおこなっています。スタッフは、看護師8名、中央材料室に看護助手3名 計11名で構成されています。



対応できる科は、外科（消化器、胸部など）・整形外科・泌尿器科・眼科・産婦人科・耳鼻科・皮膚科です。

手術室は大小4室あり、うち1室はクリーンルーム対応の部屋で、主に整形外科の人工関節や骨頭の手術時に使用しています。



最近の傾向として、体への侵襲が少ないこと、術後の回復が早いことなどから、鏡視下での手術が増えてきました。また、高齢化を反映して、白内障等の眼科の手術も増加しています。これらは、全国的な動向と同じです。私達は、『患者さんに対し、安全な周術期チーム医療の展開。手術に対する知識・技術の向上を図る。』の基本方針のもとに、「安心・安全な看護ケアの提供」を目標に、常に「自分だったら、家族だったら・・・。」を考えながら行動できる看護を目指しています。

そのため、院内外、島内外を問わず、勉強会や研修に行き、最新の知識や技術を身につけ、皆で共有するよう努力しています。

五島の皆さんへ地域格差のない医療を届けたいと、医師・看護師・その他の医療スタッフ全員で協力しあって頑張っています。

